

滝川市長 前田 康吉 様

滝川市の環境施策に関する評価報告及び提言書（案）

令和7年2月 日

滝川市環境市民委員会

1 趣旨

この評価報告書及び提言書は、滝川市環境基本条例第 29 条に基づき、滝川市環境市民委員会（以下「委員会」という。）として調整した評価及び提言などについて、滝川市長に対して年に一度、提出するものである。

なお、ここで評価対象とするのは前年度（令和 5 年度）の取組に対する評価を含め、計画期間内での施策などの進捗状況についてである。

2 令和 5 年度までの取組に関する評価について

令和 5 年度までの取組について、別添「評価シート」のとおりとし、特に次の点について評価する。

1) 環境にやさしく資源を有効に活用する循環型社会を目指すまち

滝川市の 1 日・1 人当たりのごみの排出量は、人口の減少に伴い、全体的に減少傾向にある。また、資源ごみの減少はペットボトルや缶類の軽量化等が要因にあると推測される。その中において、令和 4 年度に比べて集団資源回収の段ボールと紙パックの回収量が増加し、全体のリサイクル率が上昇していることから、市職員によるごみの分別に関する講座の効果が現れていることがわかる。市民のリサイクル意識向上に努めたことを評価するとともに、より一層の拡充に期待する。

2) エネルギーを大切にし、環境への負荷の少ないまち

町内会等が維持管理する街路灯について、水銀灯やナトリウム灯から消費電力の少ない LED 灯への切替に際し、補助金制度を設け、切替の推進を継続していることを評価する。街路灯を LED 灯に切り替えたことで町内会の電気料金の節約につながったとの話もあることから、今後も LED 灯への切替の促進に努めてほしい。

また、燃料効率を向上させる液体燃料触媒を試験的に導入したとのことで、「エネルギーを大切にし、環境への負荷の少ないまち」に向けて、新しい試みを始めたことを評価する。

3) 環境教育の充実について

環境市民大会「環境シンポジウム in 滝川高校」について、新型コロナウイルス感染症が落ち着いてきたこともあり、市民も生徒と同じ会場で講演を聴くことができた。生徒の環境に対する積極的な姿勢を受け、市民としても環境に対する学びを充実させることができたことを評価する。

また、環境学習リーダーについては、保育園児との交流を通して、高校生が教える技術の基礎を学ぶ機会として有益であり、その後の「環境学習リーダーAdvance」では高校生が小学生に対して充実した環境教育を実施できたことを評価する。

3 今後の取組に向けた提言について

今後に向けたあるべき姿や方向性、検討を要望する事項については、次の点について提言する。

1) ごみの分別・減量化について

ごみの減量化に成功しているのは喜ばしい結果である。この結果を知らない市民も多いと思われることから、さらなる減量化を目指すために、市民に向けて減量化に成功していることを感謝とともに情報発信していただきたい。

また、ごみの分別についても、正しく分別することによって、どのようなものにリサイクルされているかを知らない市民が多いと思われる。ごみの分別後のイメージが湧くことにより、分別意欲も高まるはずなので、再生利用品についても積極的な情報発信をしていただきたい。

2) 地球温暖化対策・脱炭素化の推進について

令和6年に国において「第六次環境基本計画」の閣議決定がなされ、「ウェルビーイング／高い生活の質」の実現を目標として掲げた。滝川市としても平成28年3月に策定した「第2次滝川市環境基本計画・地域行動計画」が令和7年度に計画の終期を迎えることから、令和8年度を始期とする第3次計画を策定する必要がある。その中において、滝川市として現計画で挙げている4つの基本目標の進捗状況や社会情勢の変化を踏まえ、適切な計画を策定することが重要である。滝川市として目指すべき環境の姿の実現に向けて、邁進していくことに期待したい。

また、計画の策定に留まらず、計画目標の達成に向けて市民や事業者に対し、引き続き様々な機会を通じて情報の収集と発信に努めていただきたい。

委員会としては、今後、滝川市が環境施策を展開していく中で、以上の各事項について十分に留意し取進めるよう要望し、報告及び提言する。

令和7年2月 日

滝川市環境市民委員会 委員長 高瀬 慎二郎